

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・観察をする際に、植物や虫の色・形・大きさ・動きなどを視点に観察することができた。五感を使った見方ができており、多くのことに気づき、観察カードにまとめることができた。
- ・観察にとどまらず、実際に見つけた虫を飼うことで、命の大切さについて学ぶことができた。
- ・近隣の幼稚園との交流では、児童が活動の内容を計画し、主体性が高まった。
- ・ICT 機器を使った発表方法を身に付け、各班で工夫して発表の資料作りに取り組むことができた。
- ・国語の説明文の書き方やインタビューの学習と関連させ、おもちゃの作り方の説明や地域の方へのインタビューの活動につなげた。
- ・「町たんけん」や「成長アルバム作り」では、地域の方との連携を図り、多様な活動を行った。学校外の活動では、スクールサポーターの協力を得て、図書館見学やお店インタビューを行うことができた。

(2) 課題

- ・動植物との関わりでは虫の飼育に限られてしまい、多様な生き物と関わる機会が少なかった。動物と触れ合えるように他の機関と連携し、多様な生き物と関わる機会を作ることが必要である。
- ・観察の記録や必要な情報を集めるときなどに ICT 機器の活用ができるようになってきたが、考えを伝えるための手段としての活用が不十分だった。撮った写真や調べた情報を用いて発表やまとめに生かせるように指導をすることが必要である。
- ・一度の活動で気付いたことがあっても、その気づきから新たな活動を考え、深めていくことが十分でなかった。繰り返し活動をすることで気づきの機会を与えることが必要である。
- ・「うごくおもちゃ作り」でよく動くための改良点に注目させるなど、活動の観点到に沿って、思考させるということが難しかった。事前に活動の観点を示し、どのように考え、まとめていくか手本を見せ、学習を進めていく上での見通しをもたせることが必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ 1年生との関わりや成長アルバム作りをとおして、自分の成長を実感させていく。幼いころや入学当初作品や写真など、具体物を手掛かりに、できるようになったことを見付けさせ、自分の成長を実感させる。・ 授業以外の場面でも、ICTサポートと協力し、考えを伝えるための手段として、タブレットを活用できるように指導する。	<ul style="list-style-type: none">・ 友達との関わりや情報交換を大切にしながら活動させていく。友達のよさや自分との違いに気付いたり、相手の考えを尊重する態度を身に付けたりするなど、友達との関わりをとおして、思考させる活動を行う。	<ul style="list-style-type: none">・ 外部機関と連携し、植物や虫以外の生き物と触れ合い、生命の尊さを感じたり生き物に愛着をもったりする機会を作っていく。・ 授業の他の場面でも、生活の中の気付きに関することを話題に出したり活動したりする。・ タブレットや紙媒体、劇など様々な表現方法を経験させる。「どのようにして伝えたいか」を考えさせることで、児童一人一人が主体的に取り組むようにさせる。